

四谷の

千枚田だより



第 208 号

迎春

令和二年を振り返って

○一月二日、連谷会館に於いて「連谷地区新年交礼会」(三十三名参加)を開催。鞍掛山麓千枚田保存会設立(平成九年)以来、連谷・四谷地域の皆さんの支援のなかでの各種活動を「デイスカバーむらの宝」に応募、コミュニティ部門で受賞、昨年十二月三日、首相官邸に招かれ選定受賞を賜ったことなどを報告。

○一月十一日、十二日、名古屋国際会議場を会場に生物多様性に取り組む県民・市民・NPO・企業・関連団体・教育機関などを対象にUNDB・J、環境省、愛知県、名古屋市長主催で開催。COP10あいち・名古屋開催については「四谷の千枚田」を愛知県の里山と位置付けた誘致活動に貢献、またエクスカーションの場として世界各国から訪れるなど、大きな知名度、役割を果たした。このような成果が認められ参加を要請された。保存会から五名が参加。生物多様性のブース出展とステージ発表を行った。

○一月三十一日、中電で大ホールを会場に全国農村振興技術連盟主催農業農村整備地方セミナー(北陸東

海近畿ブロック)会議に於いて小山舜二が「むらの宝」地域活性化に向けた取り組み」と題して講演。

○コロナウイルス

昨年末、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは世界各国に蔓延、我が国でも豪華客船ダイヤモンド・プリンセスが横浜港に寄港、一月五日に乗船者十人の陽性を確認。マスク爆買い、二月二十七日、政府が全国の小中高校一斉休校を要請。その後、往来、国内外渡航、イベント等々の自粛、延期、中止等々、経済に大きな影響を及ぼし続け、オリンピック延期など世界的脅威に及び、保存会における各種行事に大きく影響した。

○三月十二日、愛知県国際課、オーストラリア・ビクトリア州の行政調査 中止

○四月一日、内閣府地域活性化伝道師に小山舜二が登録された。

○四月三日、横浜ゴム新城工場新規採用社員、幹部研修 中止

○四月五日、パワートレイル 中止

○保存会通常総会はコロナウイルスの規制から書面総会とした。

○五月一日、「四谷の千枚田だより」二百号達成。

○五月四日、長篠合戦のぼり奉りにタニシ奉納。

○稲作体験学習 新城高校農業クラブ 中止 豊橋調理製菓専門学校

○六月六日、「お田植感謝の夕べ」みんなで灯そう千枚田 中止

○六月六日、第六十九回 JVA アグリラリー JVA 愛知東主催(参加者八十名)は旧連谷小学校に参集。第一中継ポイントの身平橋海源寺で保存会による千枚田の概要説明、早苗が爽やかな千枚田を散策。ウォーキングラリーを満喫した。

○七月一日、未明の豪雨(ステージ3)で千枚田入り口の農道の三か所が崩落。その後の豪雨で亀裂、崩落が数か所あった。

○七月十八日、八月三十一日まで市立鳳来寺山自然科学博物館において夏の特別展「鞍掛山麓千枚田展」を開催。(見学者八百三十二名)

○七月二十三日、日本テレビ系列「欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞」連続出演中の「チームTAKO」(設楽町津具)のメンバー六名が作製したリアル案山子が千枚田にやってきた。

○八月 中山間地等直接支払制度五期加入「四谷集落協定」 加入者



夕映えの千枚田 12月12日撮影

冬耕も終わり、日本一管理された棚田と自負

三十九名(代表 村雲伸一副代表 小山孝夫 会計 林 義明)

○八月一日〜九月三十日、小・中学生を対象に「四谷の千枚田」絵画コンクールを実施(主催 鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局 共催 新城市・新城市教育委員会・新城市観光協会・奥三河観光協議会・東愛知新聞)

○八月盆頃、新型コロナウイルスの感染拡大に帰省や遠出、イベント中止など見合わせる動きの中、自然満載の四谷の千枚田はコロナ回避族が急激に増え、平日でも賑わう。

○九月二十三日、千枚田を地域の宝と位置付けた保存活動三十年達成。

○九月二十六日、JA愛知東主催 第七回子ども農学校(子十六名)稲刈りコロナ感染回避のため稲刈りのみ実施

○十月三日、エコネット安城視察安城市) 環境保全研修

○十月十五日、グットプラクティスに選定 COP10以降に愛知県内で行われた生物多様性の保全や持続可能な取組事例に「生きもの」と共生した「コメづくり」と題して応募、選定された。

○十二月第二日曜日、「収穫感謝祭」中止

○鳳来寺山 笠杉しめ縄用藁提供。
○十二月十八日、連谷会館に於いて 棚田地域振興法「指定棚田地域振興活動計画」について市鳳来総合支所 地域課による地元説明会。

昨年的一年を鑑みると、天候不順とコロナ禍等々、嬉しいこともあったが、苦勞の絶えない一年であった。
田起し&田んぼ飛び
十二月十日、地元鳳来寺小学校五年生(十名)、四年生(十一名)は千枚田の学習田の田起しと田んぼ飛びを行った。



「稲作体験学習」田植えから収穫までの一連の農作業(コメづくり)は五年生の郊外学習として取り組んでいるが、この日は、四年生に引き継ぐことを目的に行われた。
作業に先立って児童たちに冬耕(田起し)について、一般的には春に田起しをして肥料を混ぜて、代掻き

をしていたが、千枚田では平成八年前から初冬に田起しを行うようになった。その理由は、冬耕をすることにより土中に酸素が供給され、バクテリアが繁殖する。また、今、耕すことにより作土(つくりつち)が凍り、より一層作土が若返り、美味しいおコメができる。平坦地でも収穫後、田起しをしているが、それは、田植機にゴツが掛からないため、千枚田では湧き水、天日干し、冬耕：と、地の利を活かした美味しいコメづくりに励んでいる。

児童たちのお楽しみ「田んぼ飛び」は急傾斜の石積棚田を飛び降りるスリル満点でもあるが、怪我が心配、念入りにストレッチ体操を行い、コースを見定めながら発走地へ、よいドンで一気に田んぼを飛び降りる。



童たちの輝く瞳に、もう一回、もう一回のアンコールに再度挑戦、流石にワイルドな爺も児童たちと一緒に飛ぶことだけは自粛した。



指定棚田地域振興活動計画

十二月十八日、連谷会館に於いて市鳳来総合支所地域課による地元説明会が行われた。

(棚田地域振興法については百九十二号、百九十四号、百九十六号に掲載)

行 令和三年一月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山 舜二